

## (10) 消防施設

### 1) 消防施設

#### ① 概要

本市が管理している消防施設として、合同庁舎内に設置され、市消防団の本部機能も有する消防本部・消防署が1か所、消防分署が7か所、消防団屯所が22か所あります。

消防施設は、火災、救急、防災活動など市民の安全・安心を支える拠点となる施設です。消防団屯所は車両の車庫と消防資機材などの保管庫としての機能を有しています。

延床面積で施設の規模を比較すると、消防本部・消防署が約2,500㎡、消防分署が約500～900㎡、消防団屯所は100㎡以下となっています。

昭和48年築の消防本部・消防署をはじめとして築40年を超える施設もありますが、消防本部・消防署と消防分署では、おおむね20年ごとに大規模改修を実施するなど、施設の適切な保全に努めています。

表 3-2-18 消防施設の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積(㎡)	主要な建物の情報 (H29年末現在)			
						建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
消防本部・消防署・消防分署									
1	消防本部・消防署	東中条町2番13号	複合	直営	2,513	S48	44	RC・7	○
2	水尾分署	水尾三丁目18番15号	単独	直営	597	H3	26	RC・2	○
3	下井分署	下井町2番3号	単独	直営	823	H1	28	RC・2	○
4	下穂積分署	下穂積一丁目7番10号	単独	直営	798	H10	19	RC・2	○
5	西河原分署	城の前町1番10号	単独	直営	905	H24	5	RC・2	○
6	北辰分署	大字泉原38番地の8	単独	直営	480	S49	43	RC・2	○
7	白川分署	白川二丁目11番1号	単独	直営	480	S57	35	RC・2	○
8	山手台分署	山手台二丁目2番23号	単独	直営	786	S60	32	RC・2	○
消防団屯所									
1	茨木分団本部屯所	新庄町14番9号	単独	直営	70	H3	26	LS・1	○
2	春日分団本部屯所	上穂東町5番18号	単独	直営	68	H1	28	LS・2	○
3	春日分団下穂積部屯所	下穂積三丁目5番7号	単独	直営	31	H19	10	CB・1	○
4	春日分団五日市部屯所	五日市二丁目14番9号	単独	直営	34	H13	16	CB・1	○
5	三島分団本部屯所	三島丘二丁目30番1号	単独	直営	75	H10	19	LS・2	○
6	三島分団鮎川部屯所	学園町4番18号	複合	直営	59	H14	15	RC・5	○
7	玉櫛分団本部屯所	沢良直東町1番3号	単独	直営	75	H8	21	LS・2	○
8	玉島分団本部屯所	野々宮二丁目530番地の1	単独	直営	65	S63	29	LS・2	○
9	玉島分団五十鈴部屯所	五十鈴町3番18号	単独	直営	32	H14	15	CB・1	○
10	安威分団本部屯所	安威二丁目1968番地の2	単独	直営	45	H1	28	LS・2	○
11	福井分団本部屯所	西福井三丁目683番地の1	単独	直営	55	H3	26	LS・2	○
12	清溪分団本部屯所	大字泉原1085番地の3	単独	直営	26	S60	32	CB・1	○
13	清溪分団佐保部屯所	大字佐保453番地の10	単独	直営	18	H20	9	CB・1	○
14	石河分団本部屯所	大字大岩218番地の1	単独	直営	75	H19	10	LS・2	○
15	石河分団安元部屯所	大字安元83番地の2	単独	直営	31	H9	20	CB・1	○
16	石河分団生保部屯所	大字生保138番地の82	単独	直営	32	H18	11	CB・1	○
17	石河分団桑原部屯所	大字桑原358番地	単独	直営	36	H18	11	CB・1	○
18	見山分団本部屯所	大字下音羽484番地の1	単独	直営	68	H4	25	LS・2	○
19	見山分団車作部屯所	大字車作310番地	単独	直営	24	H21	8	CB・1	○
20	豊川分団本部屯所	藤の里二丁目16番8号	複合	直営	87	H18	11	RC・2	○
21	豊川分団道祖本西部屯所	豊川五丁目20番地の1	単独	直営	40	S48	44	CB・1	※
22	三宅分団本部屯所	丑寅二丁目10番地の5	単独	直営	63	H4	25	LS・2	○

※豊川分団道祖本西部屯所はすべての建物が「茨木市住宅・建築物耐震改修促進計画」の対象外



### ③ 利用の状況

平成9年以降で市内における火災件数の推移をみると、平成15年の80件をピークに減少傾向にあり、平成27年及び平成28年には28件となっています。一方、救急出動件数は、平成9年の7,128件から増加傾向にあり、平成28年には14,468件となっており、ほぼ倍増しています。

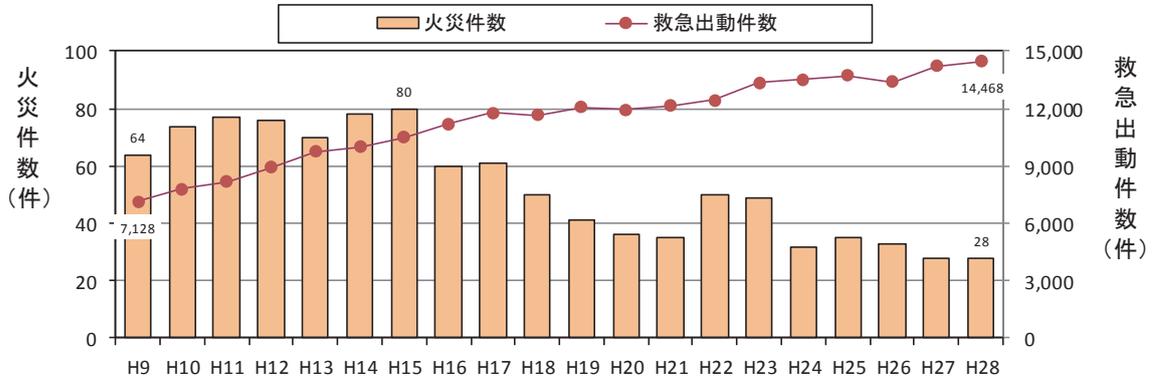


図 3-2-116 火災件数と救急出動件数の推移 (年中)

### ④ 施設に関する総コストの状況

平成28年度の施設に関する総コスト(消防施設は事業運営にかかるコストを除く)をみると、訓練施設の大規模な改修工事を実施した山手台分署で約2,300万円と高くなっています。

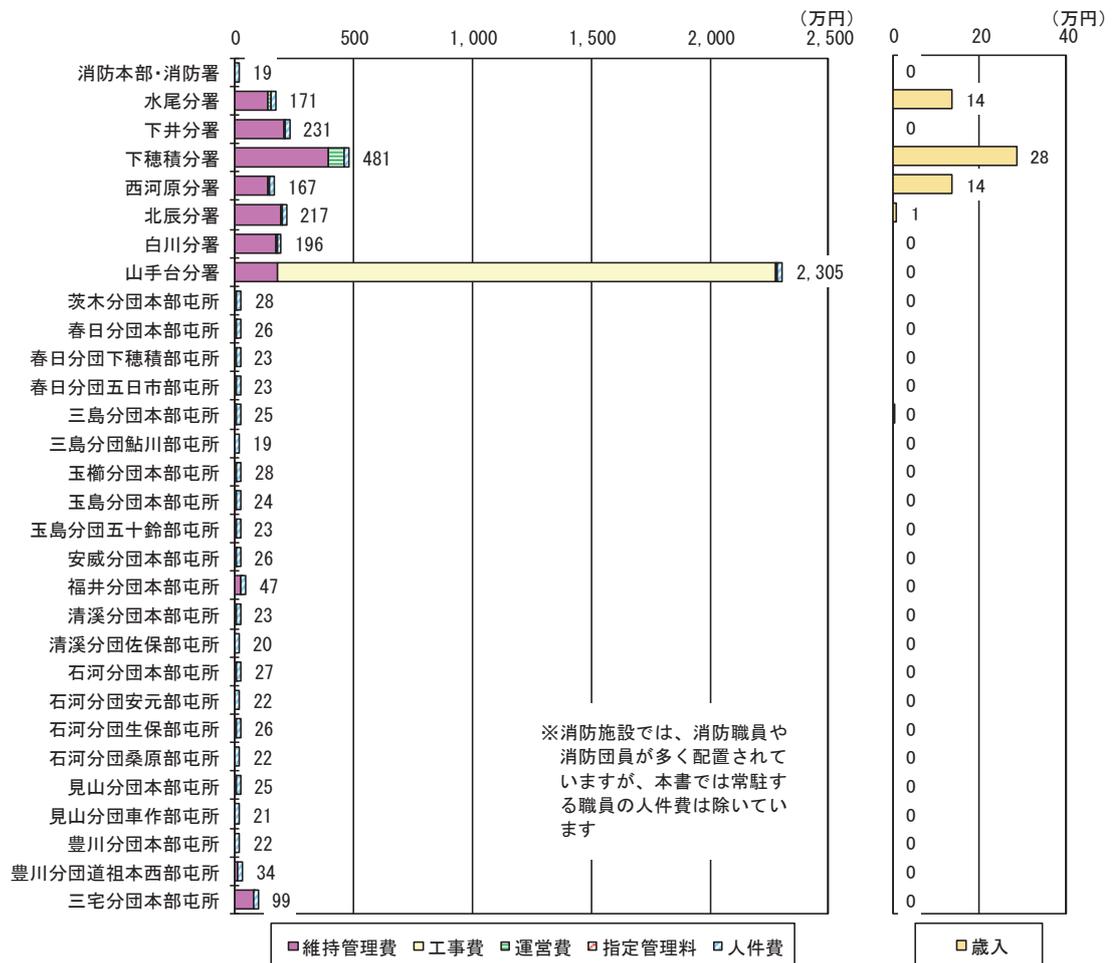


図 3-2-117 施設に関する費用と内訳 (H28年度)

## ⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積1㎡あたりで比較すると、施設規模の小さい屯所で総じて高くなっており、外壁の修繕を行った三宅分団本部屯所が約1万6千円となっています。

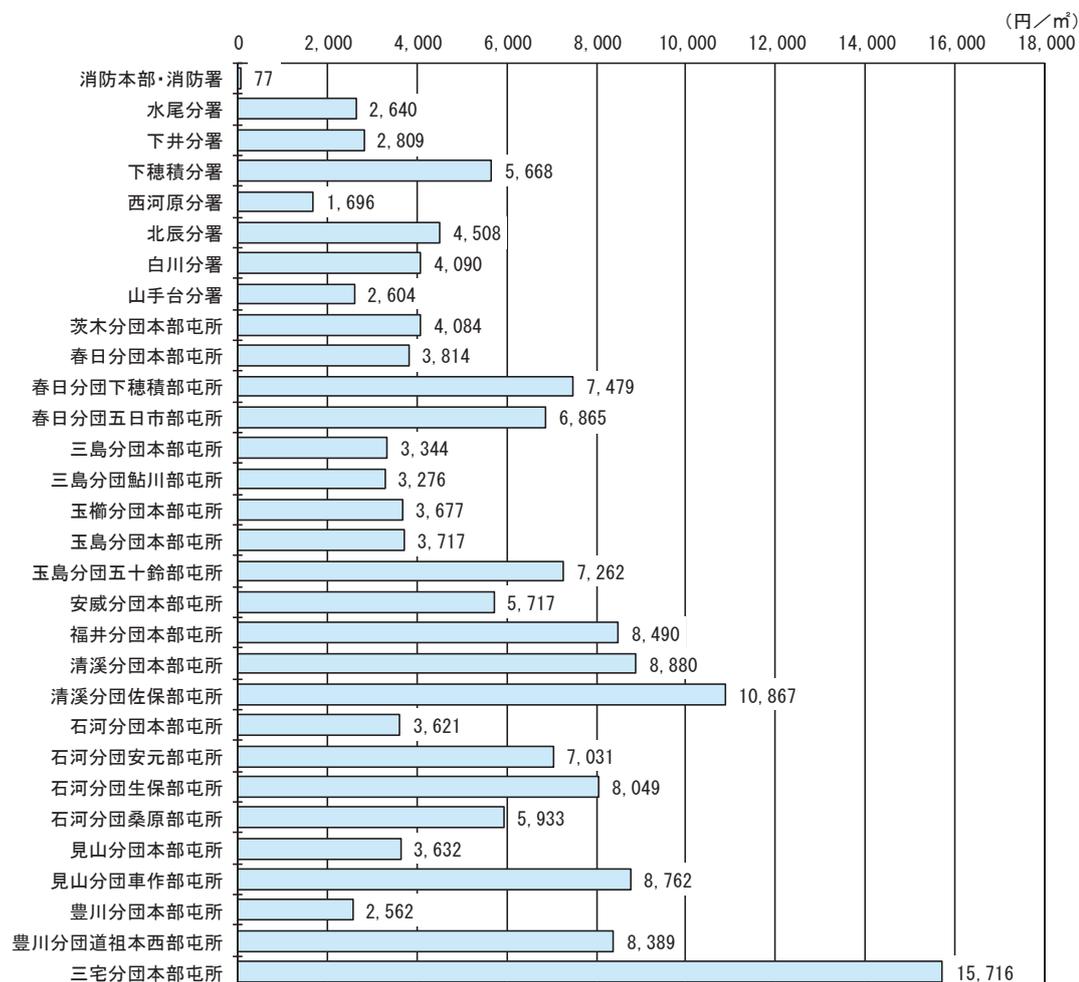


図 3-2-118 延床面積1㎡あたりの市負担コスト（H28年度）

## ⑥ 今後の課題等

- ・定期的に大規模修繕を行うなど、適切な保全に努めていますが、消防本部・消防署をはじめ、建築後40年以上を経過している施設もあり、老朽化が進行しています。
- ・消防施設は、災害時における災害対応の拠点となる施設であるため、今後も長期に使用できるよう、小規模な屯所を含めて計画的な保全や長寿命化のための改修を行っていく必要があります。